

らすけ楯は籠り居る人もさう
といふへー籠城もハ一騎当千を擡ふ事
とそ老若男女ともに籠城もハ良羽の沙
汰ふあゝるもや古武の孫は賢き人け
山の要害は使ふさまを見立楯を構へてふ
ゑの使とー支割る人をもて是をさうし
め常にま下の城山は彼を構て居候とーと
見へさう予當所は教年富居ー能地利を
見ると楯山は色は穢れてさう又廣ー
横たゐるに大山といふは山の本名とー

邑名もも聞えと見へさう楯山といふ
楯を構へて後の名なりへー楯をさうおは
何そ楯の名あゝんや伝正曰系勝の城代
松本伝法は城を焼て討死ー史より再築
りて城取のこり元禄八年酒井家（店內
をあらて後正徳元年酒井宮内右輔殿の庶
子佐中守忠解に大山一万石を分賜城山の
下を屋敷とを寛文八年申十一月廿一日當
所よおゐて病死（道林寺に送葬の地）て能嗣
なきにより大山銀一万石公收せらるゝとあり